



八坂小通信

臨時号 平成 30 年 3 月 5 日

練馬区立八坂小学校

校長 工藤 智昭

<http://www.yasaka-e.nerima-tky.ed.jp/>

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきまして感謝申し上げます。12月にご協力いただきました本校の教育活動に関するアンケートの結果がまとまりました。学校評価、学校関係者評価の結果と共にお知らせいたします。また、平成30年度の行事予定（後日変更する可能性あり）も付けましたので参考にしてください。

アンケートの設問

①～⑤は「学力の向上」に関する設問 ⑥～⑩は「ゆたかな心の育成」に関する設問 ⑪～⑯は「体力の向上・健康安全教育の推進」に関する設問 ⑰～⑲は「みんな（地域・家庭・学校）で育てる」に関する設問	教員	保護者	児童
①（児童は）意欲的に学習に取り組んでいる。	94.7	76.8	88.8
②（児童は）学習規律（あいさつ、話の聞き方、話し方）を守って学習に取り組んでいる。	78.9	84.1	79.2
③（児童は）授業の内容を概ね理解している。	94.7	84.8	86.0
④（児童は）各教科の基礎的・基本的な内容を身に付けている。	78.9	83.4	82.6
⑤（児童は）進んで本を読もうとしている。	68.5	51.9	67.9
⑥（児童は）楽しく元気に登校している。	100	94.5	85.7
⑦（児童は）進んで挨拶している。	57.9	79.2	73.4
⑧（児童は）学校のルールを守って、落ち着いて生活している。	63.2	88.9	85.2
⑨（児童は）友達と仲良くし、協力し合いながら生活している。	78.9	92.7	89.1
⑩（児童は）善悪の判断をし、正しく行動している。	63.2	93.1	82.8
⑪（児童は）進んで外遊びをしたり、運動したりしている。	89.5	94.6	79.9
⑫（児童は）早寝・早起き・朝ごはんの大切さや時間を意識して、健康的に生活している。	79.0	76.8	73.2
⑬（児童は）給食指導を通して食の大切さ（マナー・栄養バランス・感謝）を意識している。	63.2	74.3	78.2
⑭（児童は）校内・校外の安全に気を付けて行動したり、防災・不審者への対応を理解したりしている。	84.2	89.9	88.6
⑮（学校は）保護者会や学校公開、各種のお知らせ（HPなども含む）を通じて、教育方針や内容、活動の様子を伝えている。	100	91.9	/
⑯（学校は）保護者、地域の方々の意見を聞きながら教育活動を行っている。	100	88.8	/
⑰（学校は）PTAや地域と共に協力して学校行事や地域行事などの活動をしている。	94.7	97.2	/
⑲（学校は）保護者、地域の方々の協力の下、農業体験や地域巡りなど、地域の特色を生かした教育活動を行っている。	100	97.7	/

※評価は、「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階で行い、肯定的な評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の合算値（単位は%）を表記しました。網掛けの部分は、80%未満の項目です。

<「学力の向上」に関して>

学習に対する意欲や、授業内容の理解については概ね高い評価を得ています。一方で、学習規律や基礎基本の定着、読書については80%を下回る評価が多く、特に読書については3者とも70%を下回る低い評価となりました。

<「ゆたかな心の育成」に関して>

楽しく元気に登校しているという点については3者共に高い評価をしています。しかし、あいさつについては、3者共に80%を下回る評価でした。また、あいさつ・ルールを守る・善悪を正しく判断するという項目では、教員の評価が70%を下回る低い結果となりました。

<「体力の向上・健康安全教育の推進」に関して>

遊びや運動、安全教育や不審者対応等については概ね80%以上の高い評価を得ました。しかし、健康的な生活習慣の確立や食育に関する指導についての評価は、80%を下回る結果となっています。

<「みんな（地域・家庭・学校）で育てる」に関して>

学校と地域・保護者との連携についてはどの項目とも概ね90%、またそれ以上の高い評価を得ることができました。

以上のアンケート結果を受け、1月に学校評価（自己評価）を行い、今年度の教育活動の成果と課題を明らかにすると共に、次年度に向けた改善策や新しい取組について検討しました。そして、2月に行った学校評議員会において自己評価の結果を学校評議委員の方々に評価していただきました。（学校関係者評価）その結果を次ページにまとめましたのでご覧ください。

平成29年度 練馬区立八坂小学校 学校経営計画に基づく学校関係者評価総括表

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標	学校自己評価(☆成果と課題)	学校関係者評価(学校評議員の意見)	評価
学力の向上	○「わかる」「できる」を実現する読書活動の充実 ○児童自らが学ぶ力を育む学習活動の実施	○基礎基本の定着 ・基礎的基本な学習指導の徹底 ・学習スタンダード(学習規律)の徹底 ・学校図書館の活用・読書の日常化	①授業始めに、児童にねらいを提示して授業を行う。 ②学習規律の徹底を図る。(挨拶、聞き方、話し方、学習準備等) ③適切な評価の実施と個に応じた学習指導を行う。 ④指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図る。(習熟度別学習・家庭学習等) ⑤読書指導や読書時間の取り組み等を通して、読書の習慣化を図る。	A C A C D	C B B B D	☆個に応じた学習指導を行ったことで、学習内容をしっかりと理解する児童が増えた。 ☆ねらいを明確にした授業を行ったことで、児童が見通しをもち集中して学習に取り組めるようになってきた。 ●学力の二極化傾向が見られるようになってきている。下学年から、基礎基本の定着を図っていく必要がある。 ●学習規律の定着をさらに図っていく必要がある。 ●家庭と連携し、読書習慣の定着を図っていく必要がある。	・読書の時間や図書館に行く機会も少なくなっています。 ・子供たちは、話すことや文章に書くことが苦手になってしまっているのではないかと感じます。 ・音読はぜひ、させて欲しいです。親が読んでいる姿を見せることも必要ではないでしょうか。 ・ICT教育が進んできているので、パソコンの活用の仕方も今後の課題だと思います。	C
ゆたかな心の育成	○規範意識・奉仕の心の定着	・自尊感情や自己肯定感を高める ・相手のことを思いやる心の育成 ・生活指導を通した規範意識の定着	⑥児童が楽しく通える学級経営を行う。(諸アンケートを活用した学級経営) ⑦あいさつの指導やあいさつ運動を通じて、挨拶の習慣化を図る。 ⑧「八坂小 生活スタンダード」の指導の徹底を図り、規範意識を高める。 ⑨年間を通して異学年交流を実施し、自己肯定感や思いやりの心を育む。 ⑩道徳の授業や学級指導を通じて、児童に適切な判断力を身に付けさせる指導の充実を図っていく必要がある。	A D D C D	A C B A B	☆楽しく学校に通っているという児童・保護者が多い。 ☆異学年交流活動(スマイルタイム等)を通して、協力したり、相手を思いやったりする心を育むことができた。 ●あいさつが習慣化するよう、年間を通じた取り組みを行っていく必要がある。 ●生活スタンダードの徹底を図り、児童の規範意識をさらに高めていく必要がある。 ●児童に適切な判断力を身に付けさせる指導の充実を図っていく必要がある。	・あいさつは、顔見知りの人にはできるが、自分からはできない子供が多いので、あいさつ運動などの取組を行い、誰にでもあいさつする習慣をつけて欲しいです。 ・道徳が教科化になりますが、評価の仕方はどのようになるのでしょうか。 ・生活スタンダードがあるならそれを基に学校全体で同じような指導を行い、規律性を高めてください。	B
体力の向上・健康安全教育の推進	○健康学習の充実 ○安全教育の充実	・体育学習の指導改善 ・運動の日常化 ・健康教育に関する取組の実施 ・安全教育に関する取組の実施	⑪体育の授業改善・体育的活動の充実を図り、進んで運動する子供の育成を図る。 ⑫「早寝・早起き・朝ご飯」をテーマとして健康教育を実施する。(家庭との連携) ⑬年間計画に即し給食指導・食育指導を実施する。 ⑭避難訓練や安全教室などを通じて、安全に対する意識と態度を育てる。	B C D B	B C C B	☆進んで体を動かそうとする児童が多くなってきている。(体力調査の結果も向上している。) ☆安全教育の充実を図ったことで、児童に安全に対する意識や危機回避能力が高まっている。 ●家庭と連携した健康教育や、食育指導の更なる充実を図り、児童の健康に対する意識を高めていく必要がある。	・朝から元気に外遊びをする子供が多いことは良いと思います。 ・柔軟性や巧緻性が低い子供が多いと感じています。 ・好きな物は食べるが、嫌いな物には手を付けてない子供もいるように思います。極端に給食が残っているのを見てとても驚きました。	B
みんな(地域・家庭・学校)で育てる	○地域との連携 ○家庭との連携 ○積極的な情報発信	・地域の人才培养 ・教育活動の様子の積極的な発信	⑮学校便り・ホームページを充実させ、計画的に教育活動を発信していく。 ⑯保護者の声(緒アンケートや感想用紙等)を教育活動の改善に生かす。 ⑰PTA活動や地域行事に積極的に参加し、PTAや地域との連携を深めていく。 ⑱地域・ゲストティーチャーを活用した学習活動を実施する。	A A A A	A B A A	☆学校ホームページを通じて、教育活動の様子を積極的に発信することができた。 ☆地域・保護者・学校が連携を深め、諸行事や体験的な学習活動を行うことができた。 ●保護者の声を聴く機会を更に増やし、教育活動の改善に生かしていく必要がある。 ●学級だより等により各学級の様子も積極的に発信していく必要がある。	・地域で子育て中の母親が、語り合う場を作っています。 ・朝、登校班で集合する時、元気がないので、こちらから声を掛けるように意識しています。 ・地域行事に先生方が参加してくれるので、大変助かりました。 ・地域行事では、子供達のやさしさを見る事ができ、成長を感じています。	A

- ※ 「取組指標」は学校が「具体的方策」についての取組ならびにその成果について自己評価したものです。
90%以上をA、80%以上をB、70%以上をC、70%未満をDとして表しています。
- ※ 「成果指標」は「教育活動におけるアンケート調査」の結果(児童・保護者)をまとめて成果指標として示しました。
90%以上をA、80%以上をB、70%以上をC、70%未満をDとして表しています。
- ※ 学校評議員の皆様には、29年度の取組(具体的な方策①～⑤・⑥～⑩・⑪～⑯・⑰～⑲)についてA～Dの4段階で評価していただきました。